NIE実践報告

1．タイトル：学校全体で取り組むNIE

2．学校名

京都府立鴨沂高等学校

3．実践者名（代表者名）

西田陽子

4．学年

全学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

各教科・総合的な学習の時間など　全校生徒

6．単元（本時の学習課題）名

例）1年生「総合的な学習の時間」（1単位）240名

7．目標（狙い）

新聞記事を読み比べるワークシートなどを通じて、事実関係の正確な把握・記述内容の理解と要約・自分の考えと感想をまとめる力を育成するとともに、主に沖縄を通じて平和や人権について考えさせる。

8．評価の視点

意欲を持って取り組めているか。
内容を理解し、自分の言葉で表現できているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間27時間のうちの3時間を新聞を使った学習に充てる。①沖縄地方紙と全国紙に掲載された沖縄戦関係の記事比較②全国紙を一人に一部ずつ持たせ紙面構成の理解を図る③ノーベル平和賞サミットに関する記事

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

③ノーベル平和賞サミットをテーマとした学習（12月1日実施　1時間）
ノーベル平和賞サミットについて別紙資料（新聞記事8種類）をよく読み、ワークシートの穴埋めをしながら質問に答えるよう指示。プリントの完成よりも記事の内容を自分の財産にすることを目標にして取り組むよう指示する。
使用した資料は（1）11/12付毎日新聞「平和賞サミットきょう開幕」（2）11/12付朝日新聞「核廃絶　広島が導く」（3）同夕刊「平和へ手を携えて　受賞者討論」（4）11/13朝日新聞「さらば核抑止力よ」（5）同「平和サミット賞ロベルト･バッジョ氏」（5）11/15付夕刊朝日・読売・琉球新報による「広島宣言」についての記事　の5種類
ワークシートの内容は、事実関係の把握に関わる問い、誰がどのような発言をしたかを読み取る問い、生徒自身が何を感じ考えたかを問う内容、記事の背景について考えさせる問い、記事の違いに着目させる問い等からなっている。最後には学習したことについての感想を書かせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞を使った学習ではほとんどの生徒が集中してまじめに取り組んでいる。文章を読み慣れていないため最後まで完成できなかった生徒も一部いた。また表面的に書き写すことはできても内容を深く理解し自分の言葉で表現することは難しい生徒もいる。

12．成果と課題

学校全体で取り組むNIE活動が2年を終えた。「今週の注目記事」掲示板設置のほか、各教科・総合的な学習の時間での取組も進み、また図書館においても新聞閲覧コーナーの充実や、新聞記事に関わる図書や過去の関連記事の展示が行われるなど、取組の充実・発展が見られた。
今後はさらにホームルーム活動における記事利用を通じて在り方生き方を考えさせたり、進路部を中心として小論文指導の入り口に新聞記事を用いたりといった方法が検討されているところである。